

新型インフルエンザの治療薬、予防接種

新型インフルエンザの治療には、通常のインフルエンザの治療に使われている抗インフルエンザウイルス薬が有効であると考えられています。しかし、新型インフルエンザウイルスが存在しない現時点では、より効果の高いパンデミックワクチンを製造することはできません。

治療薬	備蓄主体	備蓄量	備考
リン酸オセルタミビル (商品名：タミフル)	政府	1,350万人分	うち300万人分は予防投与用
	都道府県	1,050万人分	うち栃木県は16万6千人分
	その他	400万人分	流通備蓄分
ザナミビル水和物 (商品名：リレンザ)	政府	135万人分	

《治療薬》

新型インフルエンザの治療には、通常のインフルエンザの治療に使われている抗インフルエンザウイルス薬が有効であると考えられているため、政府は都道府県とともに備蓄を進めてきました。(国民の23%相当分)栃木県においても、平成19年度までに16万6千人分を備蓄しています。(政府は、今後、国民の45%相当分まで備蓄量を増やす方針を示しています。)

《予防接種》

通常のインフルエンザの予防接種で使用するワクチンは、新型インフルエンザとウイルスの型が異なるため、感染防止の効果はほとんど期待できないと考えられています。

新型インフルエンザに対して効果が期待できるワクチンとして、プレパンデミックワクチンとパンデミックワクチンがあります。

プレパンデミックワクチンは、鳥から人に感染した鳥インフルエンザウイルス(H5N1)などをもとに製造され、平成20年度までに、政府において約3千万人が備蓄される予定です。

一方のパンデミックワクチンは、新型インフルエンザウイルスをもとに製造されるワクチンです。プレパンデミックワクチンとは異なり、効果はより高いものと考えられています。実際に新型インフルエンザが発生しなければ製造できないため、現時点での備蓄や接種は行えません。

わたしたちが取り組むべきこと

新型インフルエンザへの対策は、通常のインフルエンザ対策の延長線上にあり、わたしたちが普段の生活の中で実践できる取組も多くあります。このため、新型インフルエンザ発生前の段階から感染対策を十分に理解するとともに、できるだけ習慣づけておくことが重要です。

○ 新型インフルエンザ発生前に準備すべきこと
《通常のインフルエンザ対策の励行》

- 普段からこまめに手洗い、うがいをしましょう。特に、帰宅したときは忘れずに実践しましょう。
- 外出するときはできるだけマスクを着け、人混みを避けましょう。
- 部屋の換気や加湿を心がけましょう。
- 普段から十分な睡眠、栄養をとり、規則正しい生活を送りましょう。
- インフルエンザをほかの人にうつさないために、「せきエチケット」を守りましょう。

《食料品、日用品の確保・備蓄》

新型インフルエンザの大流行は日本だけのものではなく、海外でも同時に発生するものと考えられています。海外で大流行すれば、輸入の減少や停止によって、さまざまな生活必需品が不足して、手に入らなくなる場合があるものと予測されます。また、新型インフルエンザが流行した場合、感染を防ぐために急を要しない外出をしないことが

原則となります。災害時のように最低限(2週間程度)の食料品や生活必需品が確保できるような備蓄などを検討しましょう。

《新型インフルエンザ発生時における家庭での対応》

家族の誰かが感染して静養又は外出自粛となった場合、子どもが通う学校が長期休校になった場合などに、どのように家庭を維持していくかについて、家庭内で相談し、計画を立てておくことが勧められます。

■食料品(長期保存が可能なもの)の備蓄例

- 米、切り餅
- 乾麺類(うどん、そば、パスタ等)、インスタントラーメン
- レトルト食品、フリーズドライ食品
- 冷凍食品(家庭での保存温度、停電に注意)
- 缶詰
- 菓子類
- ミネラルウォーター、ペットボトルや缶入りの飲料
- コーンフレーク、シリアル類
- 乾パン、各種調味料、育児用調製粉乳 など

■生活必需品・医薬品の備蓄例

- マスク(不織布製マスク)
- 体温計
- 漂白剤(次亜塩素酸:消毒効果がある)
- 消毒用アルコール(アルコールが60~80%程度含まれている消毒薬)
- 洗剤(衣類・食器等)、石けん、シャンプー、リンス
- 常備薬(胃薬、痛み止め、その他持病の処方薬)
- 絆創膏、ガーゼ、コットン
- ゴム手袋(破れにくいもの)、水枕や氷枕(頭や腋下の冷却用)
- トイレトペーパー、ティッシュペーパー、保湿ティッシュ(アルコールのあるものかないもの)
- 生理用品、紙おむつ
- ビニール袋(汚染ごみの密封に利用)、ごみ用ビニール袋
- カセットコンロ、ボンベ
- 懐中電灯、乾電池 など

「せきエチケット」とは…



- せきやくしゃみなどの症状がある方は必ずマスクを着用する。
- マスクがないときは、ハンカチやティッシュなどで口や鼻を押さえ、ウイルスの飛散を防ぐ。
- 使用したティッシュなどは、ふた付きのごみ箱に捨てる。
- 鼻水などが付いた手は、きちんと洗う。